

目的 一般市民としての婦人の衣服の変遷は、和服から洋服への過程であるが、その顕著な時期は大正期から昭和初期であった。そこで本研究では、その時期における洋服作りの資料を収集・分析・考察することによって、その内容や方法・程度を明確にすることに努めた。更に、現今の洋裁書内容との比較を試み、その進展度を明らかにしようとした。

方法 ①大正元年から昭和15年までに出版された洋裁書ならびに洋裁記事の掲載されている雑誌を収集調査し、年代順に整理した。②これらの洋裁書内容を、1デザイン〔デザイン画・素材〕 2裁断〔採寸・製図（原型・服種別製図・体型別補正製図）・裁断〕 3縫製〔仮縫い・試着補正・縫製順序・基礎縫い・部分縫い〕 4その他〔着装・裁縫用具〕の4項目〔12小項目〕に分類整理した。③小項目内容を更に細かく分類整理するために各小項目内容別に、必要な条件を選出し、検討整理した。④そしてこれらの条件に各小項目内容をあてはめて分類整理した。

結果 大正元年から昭和15年までの洋裁書・雑誌記事の全容は、デザイン画や素材説明、服種別製図ならびに裁断説明、縫製順序の説明はある。これらの内容は多少の高低はあるにせよ現在の洋裁書の基盤をなしている。2裁断の中の製図について②・④の方法の結果は、洋裁書では大正14年以降、身頃原型が記載され製図法は現在のものに近い。服種別製図法では、①原型を使用して応用発展する製図法、②原型を使用しないで採寸による必要寸法を使用する製図法、③かみ製図法が記載されている。雑誌記事ではかみ製図法が多くみられる。